

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	272100819
法人名	医療法人敬生会
事業所名	グループホームしらかみのさと
所在地	西津軽郡深浦町大字関字小島崎58-3 (電話) 0173-84-3535
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年3月13日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	12 人	常勤 12人, 非常勤 0人, 常勤換算	3.6人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	～ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	理美容代1,500円ほか 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	61 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	越前胃腸科外科医院、湊谷歯科診療所
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「楽しく安らぎのある生活」という開設時からの理念を全職員が理解しており、管理者と職員の良いチームワークを保ちながら、利用者に敬意を持ち、一人ひとりのペースに合わせたケアを提供するよう努めている。また、利用者の希望を取り入れながら多彩な趣味活動を促しており、一人ひとりが楽しみを持って毎日を過ごせるよう支援している。

法人母体が医療機関であり、医療面でのケアの充実が図られているほか、敷地内には老人保健施設や在宅介護支援センターがあるため、施設間での連携が取られている。法人内には看取り委員会や身体拘束廃止委員会、事故防止委員会、感染症防止委員会、口腔ケア委員会、褥そう防止委員会、転倒防止委員会などの委員会が発足されており、虐待や身体拘束などに関する合同研修を定期的に開催し、職員の質やサービスの質の向上につなげている。

運営推進会議の委員からの意見やアドバイスを日々のケアサービスに反映させているほか、行政主催のサービス担当者会議に出席し、同業者との交流や連携、情報交換から得られたことを日々の支援につなげるなどの取り組みも行っている。

【特に改善が求められる点】

地域に密着した事業を展開しているので、その取り組みを基に全職員で話し合いを行うなど、現在の理念に地域との関わりを盛り込むことに期待したい。鍵をかけないケアを実践しているが、無断外出時に地域からの協力が得られるよう、運営推進会議を活用するなどの取り組みに期待したい。年2回の避難訓練を行っているが、今後は夜間帯を想定した訓練も行ってはどうか。

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前年度の評価結果を受けて改善が必要な項目について話し合いを行っており、改善に向けて具体的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>朝礼やミーティングで評価の意義や活用方法等について全職員に周知を図っており、日々の支援の振り返りやサービス向上への取り組みを行う機会と捉えている。また、自己評価を実施する時は職員個々に自己評価票を記入してもらい、話し合いを行った上で完成させている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者やホームの状況、評価結果を報告するほか、家族からの意見や苦情に関する解決策を検討するなどの取り組みを行っている。また、地域行事の情報を入手したり、ホームの行事案内を提示するほか、認知症についての啓蒙活動も行っている。会議で話し合われた事項は職員ミーティング等で話し合い、今後のケアサービスの向上に反映させている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>月1回のホーム便りや個人宛の手紙等を活用して暮らしぶりや受診状況等を家族に報告している。面会時はお茶を提供して家族が何でも話しやすい雰囲気を作るほか、ホーム内外の苦情受付窓口を明示するなどの取り組みを行っており、家族から苦情や意見が出された時はノートに記録し、定例会議や主任会議等で改善策を話し合い、今後のケアにつなげている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム周辺で農作業をしている住民をお茶に誘ったり、小・中学校の運動会や文化祭、よさこいソーラン踊り等の地域の行事に参加し、近隣との交流を深めている。また、保育園児や老人クラブの訪問、見学、実習生等を受け入れているほか、キャラバンメイトの資格を持った職員が中心となって老人クラブでの勉強会開催を予定するなど、ホームの機能を地域に開放している。</p>
重点項目④	<p>ホーム周辺で農作業をしている住民をお茶に誘ったり、小・中学校の運動会や文化祭、よさこいソーラン踊り等の地域の行事に参加し、近隣との交流を深めている。また、保育園児や老人クラブの訪問、見学、実習生等を受け入れているほか、キャラバンメイトの資格を持った職員が中心となって老人クラブでの勉強会開催を予定するなど、ホームの機能を地域に開放している。</p>

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念を休憩室等に掲示したり、朝礼で確認し合うなど、職員間での共有を図り、その実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>利用者への影響を考慮し、職員の異動は頻繁に行わない方針となっている。新しい職員を配置する時などは、職員間の引継ぎや利用者への説明を行っている。</p> <p>内部・外部研修の年間計画を作成しており、全職員が平均的に研修に参加できるよう調整している。また、グループホーム協会に加入したり、行政主催のサービス担当者会議に出席するなど、同業者との交流の機会を持っており、得られた気づき等を今後のケアにつなげている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>相談受付段階から利用者や家族と十分な話し合いを行うほか、ホームを見学してもらったり、自宅を訪問するなど、安心してサービスを開始できるよう支援している。</p> <p>職員は利用者と過ごす時間を持ち、会話や表情等から一人ひとりの気持ちを理解するよう努めている。また、洗濯物たたみや食器拭き、野菜の皮むき、掃除、農作業等の場面では利用者に手伝ってもらうなど、利用者職員が助けあいながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時には利用者や家族の意向等を聞くほか、職員の気づき等を出し合っており、個別具体的な内容となっている。</p> <p>利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、法人内の医療機関や看護師との連携が図られており、緊急時等、いつでも対応してもらえる体制となっている。</p> <p>看取りの指針を明確にしており、入居時から利用者や家族に説明し、同意を得ている。また、状態変化等がある時は随時話し合いを行い、意思統一を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は利用者一人ひとりの生活スタイルやペースを大切にしており、急かしたり無理強いすることなく、穏やかな言葉や態度で接している。また、食事や入浴等の場面では利用者の希望に合わせた支援を行うよう心がけている。</p> <p>法人内の管理栄養士が献立を作成しており、利用バランス等に配慮されている。また、一日の食事や水分の摂取量を個人記録に記載している。</p> <p>居室にはテレビや家族の写真、位牌等が持ち込まれており、居心地よく過ごせる空間作りが行われている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は、地域とのふれあいや協力関係など、地域密着型サービスの役割を理解している。全職員で話し合い、「楽しく安らぎのある生活」という理念を掲げているが、地域密着型サービスの役割を反映させるまでには至っていない。	○	地域に密着した事業を展開しているため、その取り組みを基に話し合いを行い、現在の理念に地域との関わりを盛り込むことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や休憩室等に掲示するほか、朝礼やミーティングで常に話し合いを行い、全職員への周知に努めている。職員は、穏やかで家庭的な雰囲気作りに配慮して日々のケアに取り組むほか、毎年介護目標を作成し、理念の実現を目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホーム周辺で農作業をしている住民をお茶に誘ったり、小・中学校の運動会や文化祭、よさこいソーラン踊り等の地域の行事に参加し、近隣との交流を深めている。また、保育園児や老人クラブの訪問、見学、実習生等を受け入れているほか、キャラバンメイトの資格を持った職員が中心となって老人クラブでの勉強会開催を予定するなど、ホームの機能を地域に開放している。実習生等の外部の人を受け入れる際には利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング等を通じて評価のねらいや活用方法を全職員に周知しており、日々の支援の振り返りやサービス向上への取り組みを行う機会と捉えている。自己評価を行う時は全職員で実施している。また、外部評価結果を基に全職員で話し合い、改善に向けて具体的に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、開催案内をメンバーに直接届け、参加を促している。会議では、日々の取り組みや評価結果、ホームに寄せられた苦情や意見等を報告し、メンバーから意見を出してもらっており、メンバーの意見は今後のケアに反映させている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政に広報誌を配布したり、外部評価結果を報告し、ホームの現状を伝えている。また、運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参画してもらうほか、町主催のサービス担当者会議に職員が出席する等、ホームの状況や取り組み、課題等を検討し、サービスの質の向上につなげている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修を通じて地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の概要について理解を深めている。また、玄関にパンフレットを備えたり、必要に応じて関係機関との連絡調整を行うなど、事業利用開始等に向けた支援を行う体制が整備されている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の他施設と合同で研修を行い、虐待に関する理解を深めている。管理者は、職員の言葉使いや態度等を観察し、虐待を未然に防ぐよう取り組んでいる。また、職員は虐待を発見した場合の報告の流れ等について理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書に基づいて理念や取り組み、看取りに関する事項等を利用者や家族に説明し、理解・納得を得ている。また、十分な話し合いの機会を設け、意向や不安等に対応している。退居時にも不安のないよう説明し、退居先に関する情報提供等も行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや個別の手紙、電話等で暮らしぶりや健康状態、受診状況、職員の異動等について家族に報告している。また、金銭管理状況は出納帳に記録し、領収書を添えて家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはお茶を提供するなど、家族が意見等を話しやすい雰囲気作りを行っている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を明示する等の取り組みも行っており、家族から意見や苦情が出された時はノートに記録し、朝礼やミーティングで話し合いを行い、改善に向けて速やかに対応している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響に配慮し、異動や配置換えは頻繁に行わない方針となっている。異動や新しい職員を配置する時は、業務内容や手順等を引き継ぎするほか、利用者への説明を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の自己研鑽や資格取得を積極的に勧めている。また、内部・外部研修の年間計画を作成しており、職員個々の希望や力量を考慮した上で、全職員が平均的に研修を受講できるよう調整している。受講後は報告書を作成し、定例会議で報告するほか、朝礼やミーティングで伝達研修を行っている。業務上の悩みは管理者や法人内の主任等に相談し、助言を得ている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム協会に加入して研修に参加したり、行政主催のサービス担当者会議に参加する等、同業者との交流を図っている。また、研修後も継続的に連携を図っており、得られた気づき等は今後のケアサービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう、ホームを見学してもらったり、自宅を訪問するなど、利用者や家族の意向や意見を十分に聞くよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と過ごす時間を持ち、会話や表情等から一人ひとりの気持ちを理解するよう努めている。また、洗濯物たたみや食器拭き、野菜の皮むき、掃除、農作業等の場面では利用者の手伝ってもらったりなど、利用者と職員が助けあいながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから一人ひとりの思いや意向を把握している。また、意向が十分に把握できない場合は表情や行動を観察し、職員間で気づきや意見を出し合って把握するよう努めている。必要に応じて家族や友人などからの情報収集も行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者や家族の意向等を取り入れるほか、各ユニットでカンファレンスを行って全職員の意見や気づきを反映させており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、状況や希望等に変化があった時は随時の見直しを行っている。見直し時には評価及び詳細な再アセスメントを行っており、現状に即した計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望する医療機関への受診支援、友人に会いに行く際の送迎、馴染みの美容院への外出支援等を行っている。また、家族宿泊時には寝具や食事を提供する等の取り組みも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関への受診を支援している。また、母体の医療機関や協力医療機関、法人内の看護師との連携が図られており、状態変化時等はいつでも対応してもらえる体制となっている。受診結果はホーム便りや電話連絡等で随時家族に報告し、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しており、看護師を配置したり看取りマニュアルを整備している。契約時から利用者や家族に説明する等、早期から意思統一を図るほか、状態変化等がある場合は随時話し合いを行い、方針を明確にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定せず、敬意を持って接するよう心がけている。また、トイレ誘導時などは耳元で声がけする等の配慮を行っている。法人内の他施設と合同で個人情報保護法に関する勉強会を行っており、個人記録は介護ステーションに保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよそその一日の流れはあるが、無理強いせず、その日の利用者の状況やペース、訴えを尊重した対応を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や好み等を把握した上で献立を作成している。野菜の皮むきや味付け、茶碗拭き、配膳等は利用者と一緒にいたり、職員も一緒に席に着き、会話やさりげないサポートを行いながら食事を摂るなど、和やかな雰囲気となるよう配慮している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴となっており、入浴日や時間帯は利用者と話し合っている。入浴時は個々の習慣や羞恥心に配慮し、安全に入浴できるよう支援している。また、入浴を拒否する利用者には時間をずらして声がけするなどの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴等に応じて、食事の支度や掃除、農作業、書道、創作活動等の役割や楽しみごとを促している。また、利用者の身体状況等を考慮し、見学を勧めるなどの支援も行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は散歩に出かけたり、敷地内での外気浴を行っている。また、利用者の希望を聞きながら週1回の買い物やドライブ、地域行事の見学等にも出かけている。外出時には利用者には負担がかからないよう、距離や移動方法、時間等を下調べしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置するほか、法人内の他施設との合同研修を行い、拘束に関する理解を深め、拘束のないケアを実践している。また、やむを得ず拘束を行う場合は理由等を記録したり、家族に説明して同意を得るなどの体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠しておらず、自由に出入りができる。外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、察知した時はさりげなく声がけしたり、付き添う等の支援を行っている。しかし、無断外出時に近隣からの協力が得られるよう働きかけを行うまでには至っていない。	○	運営推進会議を活用するなど、無断外出時に近隣からの協力が得られるよう働きかけを行うことに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には地元の消防団からの協力が得られる体制となっているほか、敷地内の他施設にホーム分の備蓄品を用意している。年2回の避難訓練を行っているが、夜間を想定した訓練は行われていない。	○	職員が少ない夜間帯を想定した避難訓練も行うことに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が栄養バランス等に配慮した献立を作成している。また、一人ひとりの疾病や習慣に合わせて、ホームで献立を調整している。一日の食事や水分の摂取量は把握し、個人記録に記載している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策委員会を設置し、マニュアルが整備されている。行政や関連機関から最新情報が入った時などはマニュアルの見直しを行っている。また、法人内の勉強会やミーティングで感染症に関する理解を深めている。感染症に関する情報をホーム便りに記載したり、注意事項やお願いを玄関に掲示する等、家族や来訪者への周知も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は木をふんだんに使用しており、ホールには椅子やテーブル、畳、床の間等が設置されており、家庭的である。また、行事の写真や季節の装飾品等も飾られている。職員の立てる物音やテレビ等の音量、照明等は適切であり、快適な空間となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物を持ち込んでもらうよう働きかけており、テレビや冷蔵庫、家族の写真、位牌等が持ち込まれている。また、好きな花や工作を飾る等、個性のある空間作りが行われている。		

※ は、重点項目。